

浄土

monthly
JODO

January 2000

1



法然上人鑽仰会



テレコムしよう。



コミュニケーションの未来へ
日本テレコム

お申し込み、お問い合わせは
お客様センターへどうぞ



0088-82 (無料)

[受付時間] 9:00~23:00 (年中無休)

<インターネットホームページ> <http://www.japan-telecom.co.jp/service/>

国際電話は**0041**、市外電話は**0088**でテレコムしよう。

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。

埼玉・鴻巣

勝願寺



勝願寺從中興四十八世藤田得三住持
と勝願寺総代の皆さん。
下は勝願寺本堂。



本尊は阿弥陀如来座像

開山の良忠上人の木像。良忠上人は浄土宗の第三祖で、鎌倉の光明寺など多くの浄土宗寺院を創建し、関東に浄土宗を広めた



本堂は間口九間奥行十一間の堂々たる伽藍で、境内の杉の木を利用し、明治二十四年十月に再建されている

旧中仙道を練り歩くお十夜の行列。
人出は今も昔も変わらない



お十夜には境内にも屋台が並ぶ



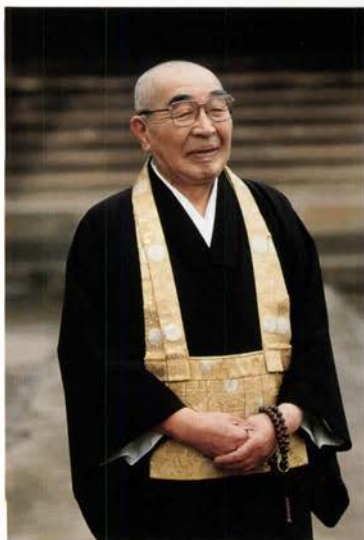
行列したあとお稚児さんは本堂に
あがり、一緒にお念仏



本堂入口左右にある帳場。かつては
お参りの人が多く、この上から受付
をしていた

阿吽の仁王像がたたずんでいる仁王門

本堂裏の竹藪。かつてここに結城御殿
と呼ばれる将軍専用の方丈があった



勝願寺從中興四十八世藤田得三住職。
お寺出身ではない住職だが、福井の
お寺で厳しい修行をされている



旧中仙道の人形店の吉見屋。吉見屋は
土蔵を「武州鴻巣雑屋歴史資料館」とし
て公開、鴻巣人形を展示している

浄土

2000/1月号 目次

カラーグラビア寺院紀行「埼玉・鴻巣 勝願寺」……写真＝タカオカ邦彦	1
西暦2000年とミレニアム ……てしま・ゆうろう	6
寺院紀行「埼玉・鴻巣 勝願寺」 ……真山 剛	14
表紙 ……芝崎慶三	23
法然上人をめぐる人々 ……石丸 晶子	24
コラム仏教歳時記 ……月天子	31
列伝 中村辨康と佐藤春夫 ……寺内大吉	32
御法語に聞く ……林田康順	36
Jフォーラム ……	47
誌上句会 ……選者＝増田河郎子	48
まちがいさがし ……	51
編集後記 ……	52



表紙題字＝浄土門主 中村康隆親下
表紙撮影＝芝崎慶三
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

西暦2000年と

ミレニアム

てしま・ゆこうろう

西暦2000年の到来を間近に、いま欧米社会では「ミレニアム」ということが、大きな話題、大きな問題になっています。

「Y2K」と呼んだりもします。これは、「Year 2000」の略です。

ミレニアムというのは、千年間とか千年期の意味です。

日本人には、ミレニアムといっても、それはただの暦が1000から2000に桁が上がることでしかありません。

日本の一般のキリスト教徒にとっても、西暦2000年は、暦が改まる以外に、特別の感慨はないものです。

しかし、欧米のキリスト教社会では、ミレニアムとは、キリスト教の歴史が2000年に達したという特別な意義をもっています。

現行の西暦は、キリスト教暦だからです。これは、キリスト教の開祖イエス・キリストが誕生した年を紀元1年として数えています。西暦をADというのは、Anno Domino(我らの主キリストの年)の略です。紀元前をBCというのは、Before Christ(キリスト前)の略です。

今日では、キリストが生まれたのは西暦前4年頃と推定されていますし、キリストが実際に伝道したのは西暦30年頃だといわれています。ですが、そんな細かいことにこだわらずに、キリスト教の歴史2000年を祝うというのが、欧米の大勢です。

世界のキリスト教徒20億人中、約半数を占めるのがカトリック信者です。

カトリック教会の総本山バチカン宮殿では、1999年12月25日午前0時、教皇ヨハネ・パウロ12世が、「これよりグランデ・アンノ・ユビリオ（大聖年）の扉を開く」と宣言します。そして、サンピエトロ、サンパウロ、サンヨハネ、サンタマリアの四大聖堂の扉が、2001年1月6日まで開放され、カトリック信者は聖堂で自由に礼拝できるようになります。その他、世界中の五千カ所のカトリック聖堂が「聖なる門」として開放されます。聖年を祝ってバチカンでは、この1年間に延べ126日のミサ（礼拝）が捧げられます。そのミサに一度でもいいから参列しようと、世界中から巡礼客三千万人がローマに集まってくる予想されています。

昨年5月の聖霊降臨節に全世界から25万人の巡礼者が集まっただけで、ローマ市内はさまざまな交通渋滞になってしまった。それが今年は、倍以上の55万人が毎週ローマに集まることになる。「2000年にはローマに行くな」とさえ言われています。

ローマ周辺の航空路線も空港も大混雑するでしょうから、2000年から2001年にかけてはヨーロッパ旅行そのものを避けるほうが賢明なようです。

最初のユビリオは、西暦1300年に教皇ボニファウス8世によって発布されました。ユビリオというのは、旧約聖書に記されている「ヨベルの年」という制度を受けつい

だ思想です。これはキリスト教の母胎となったユダヤ教の制度です。

古代ユダヤでは、50年ごとに借金を免除し、売却していた土地も所有者に復帰させるという、いわば大徳政令の年でした。ちなみに、英語では、50年祝祭を「ジュビリー(Jubilee)」といいます。これもヘブライ語のヨベルから転じた言葉です。

この伝統をうけついで、カトリック教会では教皇がユビリオを宣言した年にパチカン（指でと、罪がゆるされると信じられています。だから、2000年には世界中のカトリック信者がローマへ巡礼に行くのです。巡礼できない人は、居住している町や村の聖堂へ行き、そこで敬虔な祈りと懺悔をすることが求められています。

ところで、西暦2000年は一部のキリスト教徒には、もっと別の意味をもちます。

「再臨」といって、キリストが再び世の中にやってくることを期待する終末思想です。

キリスト教の聖書である新約聖書の巻末に「ヨハネ黙示録」という書物が収録されています。これは皇帝ネロ時代に迫害されていた初期キリスト教徒の作品です。黙示録にしている謎めいた数字「666」というのは、じつはネロを指す暗号でした。

それによれば、最初の千年間は、サタンの化身である龍が地底に封じ込められている。その間、キリストは、いったん殉教して死んだが復活した聖者たちと共に、世界を支配する。つぎの千年期が始まる前に、龍は地底の獄から解放されて、地上最終の戦いをキリストを信じる聖者たちに挑む。しかし悪人はすべて火の池に投げ込まれ、最後にキリストが

地上に再び現われ、かれを中心とする永久平和の世界が実現するという。

この黙示には、いつから千年期が始まるとは明記していません。そのため、この予言を盲目的に、かつ全面的に信じる人々を送り出す結果になっています。

これを信じる人々の中には、西暦2000年に、キリストが再び世界に降りてくるであろうから、それに会おうと、数年前から、イスラエルに移住してきている者もいます。

それどころか、世界最終戦争の大混乱がないとキリストは再臨してこないと勝手に考え、自分たちで大騒動を起こそうと企てているグループさえ出現しています。

メッカに次ぐイスラム教の大聖地であるエルサレムの「黄金のモスク」を爆破して、中東戦争を引き起こそうとか、キリストの再臨を期待して、その直前に殉教しようと集団自殺を真剣に計画している過激な狂信グループもいます。

イスラエル当局は、アメリカのFBI（連邦捜査局）と緊密に連絡をとって、キリスト教の過激派の入国を阻止しています。

2000年には、例年の2倍以上の観光客五百万人をあてこむイスラエルにとって、これは頭が痛い問題です。

米国には、そうしたキリスト教の過激集団が435団体あるとFBIは報告しています。かれらが連邦政府の施設破壊や、ユダヤ人、黒人などの少数民族銃撃などに走る可能性も指摘されています。

ふりかえって見れば、米国を開拓したピューリタン（清教徒）というのは、いわばキリ

スト教原理主義者でした。だから、その伝統を継承するアメリカのキリスト教社会の中から、さまざまな過激派が出現するのは、一面では、当然かもしれません。

ただし、カトリック教会をはじめ欧米のほとんどの教会は、西暦2000年に關して、ヨハネ黙示録を取り上げてはいません。キリストの再臨があるかもしれないなども教えていません。

西暦2000年の到来を、宗教色抜きに祝おうという計画もたくさんあります。

たとえば世界標準時の起点である英国のグリニッチです。これには、総工費12億5千万ドルをかけた巨大な「ミレニアム・ドーム」が建設されています。12月31日夜、エリザベス女王の臨席のもと、時計が2000年0時0分を告げると同時に、新千年期の到来を世界に向かって宣言する予定です。

フランスでは、まずパリの北から南にかけて「緑の子午線」を走らせようという計画が進んでいます。ミレニアムを記念する1千本の木を植えるのです。この緑の子午線を延長させ、全長1200キロメートル、フランスを南北に縦断し、スペインのパロセロナまでつなぐことになっています。スペイン政府も全面的に協力を約束し、小学校の児童に手伝ってもらって、すでに1万本以上の木の苗を子午線上に植えています。

エジプトでは、かつて世界の七不思議といわれたアレキサンドリア灯台を再建することになりました。これは、アレキサンドリア沖150mの地中海に、高さ145m、底辺部

9 m四方、頂上部6 m四方のオベリスクの形の灯台です。全部ガラスで覆われ、昼は太陽の光を反射する仕組みです。

中南米のコスタリカでは、2000年6月、国連大学と共同で、ノーベル平和賞を受賞した世界中の平和運動家を招いて、国際平和会議「グラン・フォロ」を開催します。そのさい、大砲や銃など武器をいったん溶かして、新たに鑄造した「平和の鐘」の除幕式も行われる予定です。

私の考えでは、西暦2000年にはもうひとつ意味があります。それは西暦二千年ではなく、「2000年」と書くように、ゼロという数字を使って人類が初めて祝うミレニウムだということです。

ご承知のように、現在わたしたちが使用している数字はインドで考案され、アラビアを経由して10世紀にはすでにヨーロッパに伝わりました。当初は1〜9までしか使われず、ゼロの意味や意義などまるで理解されなかったのです。ゼロがヨーロッパで実際に日常使われるようになったのは、15世紀以後のことです。

ゼロは、インド→アラビア→西洋を経由して、日本にも伝わり、明治以後全国に普及しました。そのためか、日本人には、ゼロは、ほかの数字、つまり1、2、3……以上にバタ臭く映ります。

ゼロは、サンスクリット語の「シュニア」が訛って、アラビア語で「スイフレ」となり、

さらにラテン語で「ツェフィルム」と訛り、さらにベニスの方言で「ゼロ」と縮まって世界中に広がったのです。

「シュニア」は、ほかでもない仏教という「空（くう）」と同じことばなのです。

ゼロといえば、コンピュータとも関係があります。コンピュータは、「0」と「1」を使った二進法でプログラム設計されています。

コンピュータのY2K問題といって、西暦2000年になると、その瞬間にコンピュータが2000年と認識せず、単純に00年と認識して、機械の制御エラーが出るのではないかと懸念されています。これは、初期のコンピュータ・プログラムで、西暦年を4桁でなく2桁で表記するプログラムを使用してきたために発生する事故です。

インドの「空の思想」がなかったら、案外、コンピュータの発明もなかったのかもしれない。

ゼロにはじまる西暦2000年。これは、キリスト教であれ、仏教徒であれ、世界中の人々が、物事を原点から考えなおすべき、良い機会なのではないでしょうか。

（手島佑郎／ギルボア研究所所長・ヘブライ文学博士）

寺院紀行

埼玉・鴻巣

勝願寺

撮影／夕力才力邦彦
文／真山 剛

栴檀林の額が印象的な勝願寺惣門



今年もまた新しい年が巡ってきた。しかし、世紀の変わり目となった今年ほど、人々が千年の区切りを意識して新年を迎えたのは、この2000年が初めてに違いない。やはり千年という区切りはなぜか心を刺激するものがある。次は、といえば千年後、その頃は一体どうなっているか、想像すら及ばない。

さて、これは西暦の話。ちなみに仏暦では今年は二五四三年になる。ただしこの仏暦、釈尊の生まれがキリストよりもはつきりしていないこともあり、いくつかの数え方がある。ちなみに釈尊の誕生日は四月八日、そう花祭りである。

さて、前号に引き続き暦の話になったが、今年度のトップバッターは埼玉、鴻巣の勝願寺である。昨年のトリを飾っていたいた千葉行徳の徳願寺の本寺にあたる関東十八檀林の一つである。

では、さっそくその歴史を繙こう。

実は勝願寺は現在鴻巣に二カ寺ある。鴻巣駅から北東約二キロメートルにある登戸の勝願寺。そして鴻巣駅から西南西約五百メートルにある本町の勝願寺である。

登戸の松岡山勝願寺は建長四（一二五二）年、浄土宗の三祖良忠上人が創建している。しかし第五世の酉性上人の後、関東の兵乱で寺は荒廃、やがて真言密教の僧侶たちの出入りする寺となった。

時は流れ天正元（一五七三）年、良忠上人が建立した鎌倉光明寺



惣門脇に立つ、檀林勝願寺の石碑

で学んだ清厳上人が勝願寺を訪れ、その荒廃ぶりに驚愕する。しかし、祖跡敬慕の念強く、再興をはかる。清厳上人は真言色の強いその地を離れ、現在地にもう一つの勝願寺、天照山良忠院勝願寺を学問所として再興した。そして天正十五年、北条氏によって岩槻浄国寺の開山上人として迎えられるまで、勝願寺住職をつとめた。清厳上人は隠居のつもりで岩槻に移るものの、その学徳を慕い多くの学僧が集まり、浄国寺もやがて檀林となっていく。

関東十八檀林のうち、埼玉には三つの檀林がある。川越蓮馨寺、鴻巣勝願寺、岩槻浄国寺だが、清厳上人は蓮馨寺の学頭にもなっていて、残り二か寺の開山と、まさに当時を代表する名僧であった。

さて、再興された勝願寺を清厳上人から継いだのが不残上人である。不残上人も学徳高く、多くの人々が帰依したが、その中に徳川家康がいる。家康は浄土宗の庇護者で、十八檀林の制定も家康によるものである。

下の絵地図はかつてこの勝願寺の境内図だが、左手前に並ぶ小屋が学僧のための寮である。正確には栴檀林といわれる檀林は、浄土宗僧侶の学問所で、この絵からも仏道を志す人々が多く集まっていたことが知れる。勝願寺も最盛期はおよそ六万坪の寺領と七堂伽藍を誇っていた。その頃の寺領は当時の中仙道に面し、奥は現在の高崎線の線路を越えていた。また運転免許センターや市役所のあたり



も飛び地の寺領であつたという。

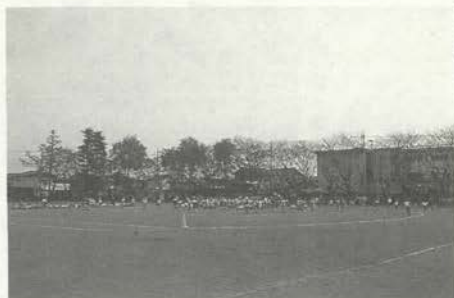
そして何より家康がこの勝願寺を訪れることが多く、現在は竹藪となつてゐる本堂奥あたりには結城御殿といわれる將軍専用の建物が建つてゐた。結城御殿のいわれは家康の次男秀康の居城であつた結城城から、建物を移築したからである。金の間、銀の間と呼ばれる方丈、中仙道に建てられた下馬札など、多くのものが結城城から運ばれてきている。

これらはみな家康から不残上人への寄進であつた。

また家康は勝願寺の檀家になれと、丹後の牧野氏と関東郡代であつた伊奈氏に命じた。江戸に入つた天正十年から三年後のことで、まさに家康の関東での拠点の一つという感がある。

家康ばかりではなく、秀忠、家光もよくこの勝願寺を訪れている。どの將軍も鷹狩りということで鴻巣まで足を伸ばすのだが、鷹狩りには領内視察、民情視察、臣下の武芸鍛錬などの目的があり、板橋宿から熊谷宿へ向かう途中の鴻巣は地理的にも大宮台地の突端にあたり、徳川幕府にとって大切な位置を占めていたのである。今も勝願寺に残る歴代將軍からの朱印状や、天領であつたことはまさにその証である。

さて、家康の帰依を受けた不残上人は慶長十一（一六〇六）年朝廷から紫衣を賜り、後陽成天皇から宸筆で歌を載っている。



かつて学寮の小屋があつた境内は公園となつてゐる

いに紫衣の 寺のゆかりを 色にまで

あらはしきぬと ねがう門跡

この宸筆も今に残る勝願寺の寺宝のひとつである。紫衣被着許可は不残上人の後も代々の住職が下賜されている。ちなみに前号の徳願寺の開山もこの不残上人で、師の清厳上人に負けず劣らずの名僧で、まさに勝願寺の基盤は上人の徳のなしたものである。

さて、境内に目を移そう。関東の古刹、名刹のほとんどがそうであるように、勝願寺の伽藍も焼失している。明治三年の大旋風と明治十五年の火災で惣門以外の建物すべてを失ってしまった。その後時間をかけて復興したもの、往時を再現するには至っていない。

現在の中仙道の旧道から少し入った所、梅檀林の額がかかる惣門をくぐると正面に小さなお堂がある。かつての開山堂から吞龍堂に変わったお堂だ。門からお堂まで百数十メートル。その左手には市に提供している公園が広がる。かつて二十近い学寮が並んでいた所だ。右手は牧野家の墓である。現在はその門が往時を偲ぼせるだけで中は塀で囲まれ見えない。特別に入らせていただくと、立派な墓が並んでいるものの、だいぶ荒れている。時代は移りそれも無理からぬことだが、現在、市に文化財として保護していく方向でお願いしているという。

余談だが、『鴻巣市史』資料編3近世の口絵カラーの一頁目上段の



惣門正面の開山堂は現在吞龍堂

左手が仁王門。その右手が牧野家の墓。現在では塀で囲われているが、整備される予定だ



明治四十三年に修復された鐘楼



写真、この牧野康成・信成墓である。史跡として整備される価値は万人の認めるところであろう。ちなみにその下段の写真は伊奈忠次・忠治墓である。この伊奈家も牧野家と並んで勝願寺の檀家であることは前述したが、墓は墓地の中にある。

右手の牧野家の墓を過ぎると山門が聳えている。居丈高の仁王像の間から本堂が見える。山門から本堂までおよそ五十メートル、その間右手に鐘楼、左手には歴代上人の墓、無縁墓、そして墓地の入口がある。

伊奈家の墓は墓地に入って右手やや奥にある。実は伊奈家の墓があると聞き大いに胸が高鳴った。というのも伊奈氏こそ現在の東京、かつての江戸の縁の下力持ちと確信しているからである。家康の命とはいえ、利根川、荒川の大改修などの三代五十年にわたる治水工事が、湿地帯の江戸を変貌させた歴史抜きに関東は語れない。そうした今までの思いとともに、しばし墓前で佇ませていただいた。

さて、墓地の入口右手には地元鴻巣宿の横田柳几が天明七（一七八七）年に建てた千句塚がある。並んで、かの石川五右衛門を捕らえたという豪傑、仙石秀久の墓など、案内板の立つ墓が並ぶ。

本堂正面向かって右に堂閣再建記念碑と人形塚の碑が立っている。人形塚は新しく昭和六十一年建立だが、鴻巣人形として岩槻とともに有名な雛人形の地元の協会が建立している。現在は十夜の際にこ



雛人形と花の町。これが鴻巣のキヤツチフリース。写真は吉見屋の資料館の鴻巣人形

の碑の前で人形供養が行われている。

十夜の話が出たが、勝願寺の十夜法要は関東の三大十夜の一つに数えられるほど有名で、鎌倉光明寺の双盤十夜、八王子大善寺の諷誦十夜と並び、塔婆十夜と呼ばれている。

勝願寺従中興四十八世、藤田得三住職に十夜を説明していただいた。「うちの十夜は塔婆十夜といって、昔は十一月の十三日・十四日・十五日の三日間でした。豊作をご先祖に報告し感謝する塔婆をあげ供養するのですが、檀信徒ばかりでなく、地元や近在（五里四方）の人々が座布団等をもって十三日の夕方からお参りし、本堂内が歩けないくらいお籠り（泊まる）の人がいました。堂内ではお念仏の合間に楽しく語り合ったり、踊ったりしていました。お十夜で知り合ったり、見合いして結ばれたというご夫婦によく出会います。此の辺りの十一月はもうかなり寒いのですが堂内は人息で暑いぐらいでした。外ではサーカス・見世物小屋・オモチャの店や食べ物屋等々境内一杯にアセチレンガスの燃える匂いが充満していました。十五日朝五時のおつとめで皆さんお帰りになるのですが、お土産として必ず樽柿と秋刀魚を買って帰ったものです。柿はともかく、海から遠いこの地域にとって、当時、秋刀魚はご馳走であつたし、精進落という訳だったのでしょいか。

とにかくこの地域にとって勝願寺のお十夜は特別なもので、お箸



埼玉県の免許の書換はここ、鴻巣の運転免許センター。かつては勝願寺の寺領だったという

や道具、衣類など、新しい物をおろすのも正月ではなく、このお十夜からだだったといえます。

ですがお籠りをする人も昭和三十年代までで、テレビが普及すると急激に減り、今では世の中も変わり、警備等の関係でお籠りはしませんし、期間も十四日と十五日の二日間になりました。」

巻頭のカラー写真で紹介したが、本堂内の帳場（受付）はかなり高く、広い。まさに当時の十夜の盛況ぶりが偲ばれる。また、秋刀魚十夜とか柿十夜とも呼ばれたと言うから、本当に地元や近くの人々にとつてのかけがえのない行事だったようだ。今はもう秋刀魚も柿も売っていないが、相変わらず屋台は並んでいる。それに人形供養が加わり、また新しい形の勝願寺のお十夜が定着しつつある。

前述の『鴻巣市史』資料編5の口絵は鴻巣人形だが、江戸時代中期からその豪華さをました雛人形は鴻巣の顔である。地元の伝統行事が地元の伝統工芸と結び付くのは誠に喜ばしい限りである。

かつて僧侶の養成を目的とした檀林が現在は檀信徒、一般を問わずこうした行事を通して地域と一体化していく。これこそ時代が求めるお寺の在り方に違いない。

仏暦二五四三年も、勝願寺の山門を一人でも多くのくぐることを祈って止まない。

（ルポライター）

鴻巣駅から勝願寺までは、歩いて五、六分



鴻神社。いくつもの神社が合祀された、鴻巣を代表する神社



懐しき玩具

撮影

芝崎慶三

日本各地のふるさとで、それぞれの伝承や習慣を土台にして、手軽な材料で作られた郷土玩具、おもちゃ。

おもちゃ、とは、もともと「おもて（ち）あそびもの」という言葉の略といわれています。つまり、手に持って、遊ぶもの。おもちあそびの転訛が「おもちゃ」。

懐かしいおもちゃたち。ふるさとの匂いのする玩具たち。2000年の「浄土」の表紙は、郷土玩具やブリキのおもちゃのずらり勢ぞろいシリーズです。

「誰でも一度は子供だった」という有名な童話作家の言葉があります。

「でもそれを忘れてはいませんか」

と彼は続けます。

懐かしい玩具を見ながら、思い出せたら。あの遠い——日々のこと。

『書きおろし連載小説』

石丸晶子

法然上人を
めぐる人々
式子内親王の生涯
(第二部)

第二回 残された人々

四

阿波介と弥太のしらせによつて、法然が石清水八幡の宮司の女美子のことを思い出していた丁度その頃、下男姿に身をやつした二人の若者が、平家首渡しの見物人で市をなすきわぎの都大路をはなれ、洛西嵯峨野方面へむかう道を急ぎはじめていた。

若者たちはやがて、大覚寺の奥の、とある閑静な屋敷までくると、つと人目をはばかりようにして左右に目を走らせ、そのまま木戸をあけて中に入った。

兄齋藤五、十九歳。弟齋藤六、十七歳。二人の若者である。

兄弟は、前年寿永二年（一一八三）六月、木曾義仲の軍勢とたたかつて平家が大敗した砥波山合戦で、平家方の老将として討死した齋藤別当実盛の子息たちであった。

平家が都落ちした当時、年若い二人はまだ部屋住みの身で、どんな官途にもついていな

かった。

いきおい、他家の人々と交わりもなく、人に顔を見知られているということもない。

そこで、首渡しのうわさにじつとしていられなくなった二人は、顔を知られていないことを幸いに、主と仕える維盛と平家一門にかんする情報を手に入れたいと、都大路に出かけていたのだ。

彼らが木戸をあけて入っていったところは、平重盛の嫡子維盛の妻子が隠れ住む屋敷である。

前年七月、一門の人々はみな妻子とともに都落ちしていったが、維盛だけは同行したいと泣き縋る妻子を振りきり、家族をひきつれないで西海にむかつていた。

「いかがでありました」

早春の午後の日ざしが、障子をとおしてうすく射しこむ御簾のむこうに、二人の兄弟の姿をみとめるや、維盛の奥方はすぐそう問いかけてきた。

「御一門の方々の御姿、ことばもありませぬ。恐ろしきものを見てまいりました——」

兄の斎藤五のことばに、弟はつづけることばもなく、二人はからだを震わせて男泣きに泣いている。

「おお、何を見てきたのです。言ってください。殿はご無事であられようか」

顔色を蒼白にした、二十六歳の奥方の声が震えた。

「——討死された御一門の方々の御首を、幾十となく源氏の者共が槍に突き刺し、都大路を喚きつつ行進しておりました」

「何ということ——」

奥方は絶句した。

夫の安否のほどを知るのをおそろしくて、それ以上ことばがでてこない。

「父上はいかがであられようぞ」

「父さまは、父さまは」

奥方の左右に坐した若君の六代十歳と、姫君の夜叉八歳が、口々に斎藤五と六に問いか

けてきた。

六代も夜叉も、風に匂う花のような、とその美貌をたたえられた父ゆずりの、まことに美しい若君と姫である。

「——小松殿の公達（維盛とその弟たち）の御なかでは、備中守様（平師盛）の御首だけがお渡りでございました」

「されば、わが殿にはご無事であらせられたか」

緊張がゆるみ、ぐらりとからだがよろめくのをあやうく脇息で支えた奥方は、

「備中守殿はまだ十七歳の御身の筈。それを討死されたとは——」

と桂の袖を顔にあて、あふれる涙をかくしている。

「叔父上はなぜ討死されたのか」

「討死された平家の方々は、どなたとどなたぞ」

若者が、御簾のなかから斎藤五と六に問いかけた。

五

「見物衆のなかにわけ知る男たちがおりまして、その者たちが話しておりましたところによりますと」

なお流れでる涙のなかから、兄弟は今しがた都大路で見聞きしてきたことどもを、奥方と若君たちに告げていった。

一つの首に数十、数百の源氏の侍が、わめいたり叫んだりしながら首渡しをしていくなかで、討死した一門の渡しが終り、これから彼らにつらなる武将たちの首渡しが始まろうとするときだった。

「わては、播磨の商人あきんどやけどよ、お侍たあ、むげえもんやで」

首の行列ぞいに見物人たちがごつた返すなかで、そう呟いた男がいたのである。

「丁度わては、丹波に商売あきうりにいった帰りやつた。ここ数日のうちに源平の合戦があるちゅううわさや。こりやひと儲けでける思うてな。

米と大豆を小者こものにも持たす、わても目一杯からだにくくりつけて、帰りを急いどつた。いやはや、それがとんだことになってしまったわ」

商人あきんどというのはいつの時代でも情報にくわしい。合戦の事情に通じているらしいその商人の呟きに、まわりの見物人たちが好奇心にかられて集まってきた。

「おお、そんなら一ノ谷の合戦に行きあわれたかの」

男をとりかこんだ見物人の一人が、さっそく訊ねはじめた。

「いや、行き逢うたところやない。一ノ谷の合戦の前日、三草山みくささんの合戦から戦ははじまつてたんや。わては、その三草山から一ノ谷、生田ノ森の合戦まで、一部始終を見てきたがな。戦場近くを走りまわつてな」

そのときの興奮がよみがえってきた様子で、男は目をぎらつかせ、押しつけるようなだみ声でいった。

「それ」と男は首の行列のほうに視線を投げると、

「こういうことになったのも、もとはといえば三草山から始まったわな。二月五日の夜、わては、小野原で一泊して明石の家に帰ろうと思うてな。すると大そうな数の馬の足音がきこえてくるやないか。源氏の搦め手の軍勢よ」

商人が耳にしたのは、源義経を総大将とする搦め手の源氏一万余騎のひずめの音であった。

「こりや、ただごとやない。いよいよ合戦や思うてな。わては、小者とともに近くの山に逃げこんで様子をみておった」

「・・・」商人の周囲だけが、首渡しにどよめく都大路のさわぎをよそに、しんとしてその話に聞き入っている。

「して、どうやった」

誰かが、昂ぶった声で話を促した。

「どうもこうもねえわな」

男は声をふるわせた。

「大澄火、大澄火、いう声がしてな。何や思うとると、小野原周辺の民家に火をつけたんや。あたりは真昼の明るさよ！」

「ほう！」

人々は一斉に嘆声をはなった。

「民家だけやない。草にも木にも火をつけてな。わてら、火に照らされて、身を隠すのに難儀したわい。お陰で、小豆も米もあらかた放りなげてしもうた」

「いかにものう」男の話にすっかりつり込まれ、ふたたび嘆声をあげた人々に、

「感心せんでもええ」

と男はうめくように呟くと、

「それで真昼になった夜道を、源氏は三草山の平家めがけて突撃したんや。合戦は明日の昼と思うてた平家はひとたまりもねえわな。合戦にそなえるいうてな。その夜はみんな眠りこんでおったそうや」

六

「やるやないか、源氏は」

「恐つそろしいこつちゃ」

「平家も哀れよのう」

商人の話に、口々に人々が呟くなかで、

「だけんど、澄火がわりに家を焼くちゅうのは許せねえ」

誰かが小声で呟いた。

「三草山に陣しとったのは、小松殿の君達と耳にしちよるがのう。今の首渡しをみてみい。

備中守様のお首だけやないか」戦場近くをか

けまわってきたという商人が、そういつてなおも話をつづけようとしたとき、

「おお、わしあ、高砂の綱元やけどよ。わしもこの合戦をしこたま見てきたわい」

商人の話に聞き入っている人垣のうしろのほうで声がした。

「生田から須磨、明石、高砂の海ぞいには平家の船が幾十となく浮かんでおつてな。味方

の落ち武者たちを乗せて沖に逃げ出すのを、この目でしつかと見てきたんや」

人々の目が、商人からその綱元のほうにいつせいに移っていった。

「今いうた小松殿の君達のことやが、三草山から命からがら逃げ出されてな。わしらの高砂の浜で船に乗ると、屋島にむこうて逃げ帰られたわい」

「すると、小松殿ご一家のなかでは、備中守様だけが逃げおくれてか」人々のなかから声があがった。

「いんや」

高砂の綱元だという男は首を振ると、

「小松殿の方々は、海は目ざして三草山から逃げる途中、合戦に敗れたちゅうこつを、総

大将の内大臣様（平宗盛）に報告せなあかと気づかれたんや」

「何とまあ、のん気な」

「逃げる前に、まず敗れたちゅうこつを、内大臣に知らせなあかんやないか」

「平家は終りやな。そないなことで」

口々にいいはじめた人々にむかい、

「しっ」

といって素ばやく行列のほうに目を走らせた
網元の漁師は、

「大きな声だすなつて。みい。源氏のお侍が
わしらのほう振りむいたやないか」

そういうといっそう声をひそめ、

「そこでや、小松殿の兄君たちは、末の弟の
備中守様をよんで、兄君たちに代つて一ノ谷
におられる内大臣様のもとに、三草山の陣は
総崩れになったこつ報らせにいくよう、いい
つけたんや」

(つづく)

石丸晶子（いしまるあきこ）

東京生まれ、東京大学大学院人文科学
学研究科修了。現在東京経済大学教
授。一九九一年、『式子内親王伝―面
影びとは法然』で第一回紫式部文学
賞を受賞。著書は他に、『法然の手紙』
（人文書院）『お手紙から見る法然さ
ま』（浄土宗出版室）『現代語訳蜻蛉日
記』（朝日新聞社）など多数。

春の七草のひとつ「仏の座」とは、また随分な命名です。

蓮華座——のイメージから出たのでしょうか。蓮華座とは結跏趺坐の仏像を載せるために蓮の花を象って作った台座のことでもあります。

この「仏の座」はタンポポの小さいような感じで円座をなしてはりついています。別名「たびらこ」。

でも、いわゆる和名ホトケノザは、この春の七草のひとつとは別もの。葉が心臟型をしたシ

ソ科の植物です。

霜の葉をしかとたたみて仏の座

町田勝彦

いかにもしっかりと地面に張った感じが出ています。

たびらこや洗ひあげおく雪の上

吉田冬葉

新春とはいえ、まだ寒い冬のなか。雪の上にサツと置かれる緑。清冽な新鮮さを感じます。

仏の座

月天子

土手にして日だまりにして仏の座
渋谷士郎

こちらは少し暖かくなってきた頃。土手のひだまり。ゆったりとした、とてもいい時間を過ごしていますね。

大葬も雨たびらこの花も雨

鶴丸白路

まさに仏の座のイメージ。佳句の多い季語といえますね。

古き伝統技
三代にわたる信頼

有限会社

浄土宗法衣専門
古島法衣店

〒111東京都台東区元浅草4の2の1
電話(03)384221289
振替001801245231

新連載

雑誌『浄土』を支えた人々

列伝

仏教ルネッサンス再び。珠玉の一冊『念佛讀本』執筆者たちの足跡

中村辨康と佐藤春夫

寺内大吉

現浄土門主中村康隆猊下の御尊父辨康上人とは若い日、しばしばお目にかかっている。

『浄土』の編集の手伝いをしており、辨康上人の「信仰問答」の原稿をもらいに毎月、増上寺へ訪ねたものである。当時、上人は執事長であった。

ある日、私は雑誌の記事をそのまま上人にぶつけてみた。亀井勝一郎氏によると、瀕死の床にあった倉田百三氏が「君、お浄土って、ほんとうに実在するのかね」と質問したそうである。「出家とその弟子」などで念仏信仰を弘め一世を風靡した倉田氏のこの設問に、亀井氏は絶句して答えられなかったという。

辨康上人は明快に答えた。

「今更、何を言ってるんだね。実在するもしないも、すべてがお念仏の力ではありませんか。お念仏をかさね唱えていればお浄土が見えてくるし、理念理屈で考えこんでいれば絶対に見えませんよ」

別の機会で中村辨康上人の履歴を求めた折、



中村辨康

その学歴に「尋常小学校高等科卒」と明記してあった。いずれ宗門の養成機関に学ばれたのではあろうが、世にいう学歴としては、堂々と「小学校」と書いてはばからない上人であった。

あの豪放酒脱だったお姿が偲ばれてならない。

佐藤春夫先生については『浄土』に原稿を書いてもらっていたときは全く知らない。戦後になって、こちらが作家の卵であったころ、

◆雑話 『浄土』を支えた人々

しばしば小石川のお宅へ参上した。毎年「春の日会」という佐藤先生の誕生日を祝う会がひらかれ、私はもっぱら先日物故した尾崎秀樹君や伊藤桂一君らと受付係だった。

直木賞を受けた直後、御自宅に参上したら、こんな話をしてくれた。

「自分は芥川賞の選者でそちらの席にいたが、直木賞の方が気になって、ろくろく身が入らなかった。選考の途中で情報が入り、思わず、きまったかと呟いたら他の芥川賞委員から未



佐藤春夫

だ決定していませんよ、と注意されました」
ちなみにその年次、芥川賞を受賞したのは三浦哲郎君であった。

佐藤春夫さん宅に初めて連れていってくれたのは我が師富沢有爲男先生である。大正大正時代から師事しており、何くれとなく面倒をみてくれた。ことに戦後、文章の勉強には活字になった自分の文章を点検してみるのが一番だと言ひ、先生が依頼された単行本の少年小説類を次々に廻してくれた。ガリバー旅行記や宝島など海外の名作を何百枚も書いて先生の名前で発刊したものだ。たしかに活字になって読み直すと小説文章のコツが手に取るように理解できた。

それはともかく富沢先生は洋画家の出身で、二科展で何度も特選で入賞している。パリへ遊学中に翻然と絵筆を捨てて小説業に転じた。第二回の芥川賞を受賞している。

捨てはしたが、プロの画家が嫌になっただけで絵はいつも描いていた。そんな作品に「佐

藤春夫像」なる大ぶりの油絵がある。私の寺へ持ってきて「ここなら永久に保存してもらえてしょう」と言った。佐藤先生も「一度見にゆく」と会うたびにおっしゃりながら実現を見ず、「あわれ情あらば伝えてよ……」というあの有名なサンマの詩の自筆軸を下さっただけで世を去ってしまった。

ごらんになったのは奥様で、独りで寺へおいでになり、本尊さまの脇にかざった夫君像へ合掌してゆかれたのであった。
佐藤春夫先生が法然上人伝を素材にした「掬水譚」はたしか鑽仰会の発行である。再刊出来たら有難いと思っている。

仏教ルネッサンス、再び
珠玉の一冊此処に復刻成る

完全復刻『浄土』昭和十一年十一月號持輯

念佛讀本

執筆者一覽

石眞大佐中樞
井野野藤村尾
教正法賢辨辨
道順道順康匡

稲小佐江島笹
垣西藤藤野本
眞存春激愼戒
我祐夫英祥浄

中松梅矢井
野浦原吹川
善眞慶定
英一隆輝慶

(目次登載順)

念仏者共携の書！【特別頒価二千円—送料込み—】

■申し込み、問い合わせ■

法然上人顕仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

電話：03-3578-6947/FAX：03-3578-7036

御法語に聴く

なき人のために念仏を廻向し候へば、阿弥陀ほとけ光をはなちて、地獄・餓鬼・畜生を照らし給ひ候へば、この三悪道にしづみて苦を受くる者、その苦しみやすまりて、いのち終りてのち、解脱すべきにて候。

(『往生淨土用心』)

先立たれた方のために念仏を振り向ければ、阿弥陀さまは光を放ち、迷いの世界に堕ちこんで苦しみにさいなまれている方を照らし、て下さるのです。すると、その苦しみは止み、そこでの命が尽きるとお浄土へ往生し、そこで覺りを開くことができます。

なき人のために―お念仏の廻向―

「お葬式にはあなたの大好きな胡蝶蘭でお送りしますからね」。

昨年しんねんの十一月中旬、当山でお葬式がしめやかに執り行われました。二十年以上も筋ジストロフィーと闘い続けたKさんの六十三歳の死でした。ご自宅で亡くなられたので、検死のためやむなく遺体は自宅を離れることになりました。けれども、ただの一つも床ずれのない綺麗な身体を目の当たりにして、検死官の方も「長くこの仕事をしていますが、これほど綺麗なご遺体の方は今まで見たことがありません。奥さまの献身的な看病のようすが伝わってくるようです」と感嘆され、すぐさま遺体は自宅に帰ってきたそうです。そんな心やさしい奥さまがKさんと交わした約束が冒頭の言葉です。

まっ白な胡蝶蘭がみごとに祭壇を飾ってくれました。出棺の際、Kさんのお顔は、あふれんばかりの胡蝶蘭に囲まれ、愛しい奥さまに見送られ、にこやかに微笑んでいるかのようにでした。

ところで、たびたびお話の場で次のような質問を受けます。「生前、お念仏を称えなかった方は往生できないのですか？」と。

なるほど、「お念仏を称えれば必ず往生することができますよ」というお示しこそ法然上人の教えの肝要です。あの親鸞聖人も次のようにおっしゃっています。

親鸞は、父母の孝養ぼうようのためとて、一返にても念仏まうしたること、いまださふらはず。そのゆへは、一切の有情はみなもて世々生々の父母兄弟なり。いづれもいづれも、この順次生じゆんしやうに仏になりてたすけさふらふべきなり。（『歎異抄』五）

すなわち「この世での命を終えた者は、私たちにはどうすることもできない。阿弥陀さまにすべてをお任せざるを得ない。お念仏は、この私が仏になるための教えなのだから、この私が往生して仏になったあかつきには、必ずやあらゆる人々をお救いしよう」と。親鸞聖人らしい、法然上人の教えの原理・原則の精緻な分析です。

けれども、そこは凡夫のはかなさ。「心と心のふれあい」を共にしてきた大切なあの方を亡くした時、弱い心を持った私たちが「なんとかしてあの方には浄土往生を遂げていただきたい」との自ずから

沸き起こる願いを抑え難いのもまた事実です。決して原理・原則に収めきることなどできない私たちのそんな弱い心をよくご存じて、法然上人は冒頭のご法語をお残し下さったのでしよう。すなわち、親鸞聖人の分析に「けれども阿弥陀さまは、『大切なあの方をなんとかして往生させて下さい』という私たちのありのままの願いをよくご存じて、今はなき大切なあの方へと向けられた心からなるお念仏をもしつかりと受け止めて、その光明によつてなき方を照らし出し、お浄土へと迎えて下さるのですよ」と続けるために。

胡蝶蘭に囲まれたKさんの遺影に向かい、奥さまと共に称えたお念仏の声も、必ずや阿弥陀さまは耳を澄ませてお聞き届け下さったことでしょう。そして、一足早く往生されたKさんは、奥さまが祭壇に飾ってくれた何倍もの胡蝶蘭をお浄土で咲かせて、遅れてやってくる奥さまをきつと笑顔で迎えて下さることでしょう。合掌

俱会くえい一いっ处しょ 妻に指切り しておこう（山本進太郎氏作）

（大正大学講師 林田康順）

平成十二年
謹賀新年

浄土門主
總本山知恩院門跡第八十六世

中村康隆

大本山増上寺
法主

藤堂恭俊

大本山金戒光明寺
法主

坪井俊映

大本山
百萬遍知恩寺
法主

大野忍敬

大本山善導寺
法主

民谷隆誠

大本山光明寺
法主

戸松啓真

大本山善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

平成十二年
謹賀新年

浄土宗事務総長

水谷 幸正

浄土宗議会議長

江口 定信

浦安市堀江四―十四―二

浄土宗東京事務所所長

袖山 榮眞

〒200-0866 長野市西後町一五六八 十念寺

浄土宗出版室長

小林 正道

〒100-0001 東京都港区芝公園四―九―八 妙定院

浄土宗東京教区教区長
光取寺住職

大室 了皓

〒140-0001 品川区上大崎一―五―十
電話〇三(三三四四一)八三三八四

浄土宗神奈川教区教区長

清水 嚴矩

〒220-0001 鎌倉市材木座六―十七―十九
大本山 光明寺中
電話〇三(三三四四一)八三三八四

平成大事業勸募懇請中
御影堂屋根替大修理完成
ひきつづき阿弥陀堂新築再建
美作 誕生寺

〒200-0001 岡山県久米郡久米南町里方八〇八
TEL 〇八六七(二八二二〇)
FAX 〇八六七(二八二二〇)

平成十二年
新年賀謹

総本山知恩院

おてつぎ運動 推進部長

東海林 良雲

塩釜市雲上寺

京都文教短期大学

学長

伊藤 唯真

〒611-0801 京都府宇治市横島町千足八〇番地
電話〇七七四(二二)四一〇一

淑徳学園中学・高等学校

校長

大谷 壽雄

学校法人 大乘淑徳学園

淑徳大学 淑徳短期大学

理事長

長谷川 良昭

〒174-8645 東京都板橋区前野町五十五十二

大正大学

理事長

大田 秀三

〒204-0803 高崎市通町九〇
電話〇二七(三三三三)四〇〇〇

伊勢教区

山下 法文

松阪市樹敬寺

宗議会議員

小田 義海

〒527-0805 九品院住職
佐世保市大和町一八八一
TEL 〇九五六(三三三)七六七六

平成十二年
謹賀新年

貞松院住職

山田和雄

〒591-0804 諏訪市諏訪二丁目十六番二十一
電話〇二六六・五二一九七〇

正覚寺

住職 江藤英賢

〒595-0803 武生市京町二丁目一八
TEL (〇七七八) 二二一三三一九
FAX (〇七七八) 二二一六一一七

青森教区
青岩寺

青山浄晃

宗議会議員
靈巖寺

河本眞龍

〒594-0854 萩市権屋町四二二
〇八三八・二二一五八七

勝願寺

〒593-0838 埼玉県鴻巣中本町八丁目三二

和歌山・西念寺

武田喬彦

〒621-0024 海南市阪井四六六

高德寺小住

矢田修真

平成十二年
謹賀新年

宗源寺

斎藤 价洲

清水湊 貝付毘沙門天

忠高山 實相寺

愚鈍院 住職 こつぶがや文庫主

中村 眞道

〒884-0051 仙台市若林区新寺三十二丁十七
電話〇二二(二五〇)六〇五七

晴雲寺住職

塚田 弘導

〒254-0046 平塚市立野町六一五
電話〇四六二(二二)一六三八

大松寺

住職 酒井 亮貫

〒108-0073 東京都港区三田四一―一三八
電話〇三(三四五一)二四九四

弘経寺住職

金田 進徳

〒302-0023 茨城県取手市白山
二一九一―一八

〒420-0839 静岡市鷹匠二丁目二四番十八号

玉桂山 華陽院

電話〇五四二(二五二)三六七三
FAX〇五四二(二五二)三六五六

平成十二年
謹賀新年

骨仏の寺

一心寺

〒541-0802 大阪市天王寺区建礼二 一八六十九
電話〇六（六七七）〇四四四

定義如来

西方寺

〒981-3213 仙台市青葉区大倉字上下一
電話〇三三（三九九）一〇一一

浄土寺

阿川文正

〒100-0052 東京都港区赤坂四 二二五
電話〇三（三五八）二二六〇

孤峯山 蓮馨寺

吞龍上人奉祀

久米原恒久

〒566-0808 川越市進雀町七一
電話〇四九二（二二二）〇〇四三
FAX〇四九二（二二二）〇六七六

〒112-0802 東京都文京区小石川三丁目
十四番六号

無量山 傳通院

TEL〇三（三八一四）三七〇一（代表）
振替東京六〇九三番

函館 称名寺

〒990-0855 函館市船見町八十四
電話〇一三八（二二二）〇五七四

浄土宗大願寺住職
浄土宗宗議会議員

神谷英敏

〒962-0822 函館市銭亀町一〇一

平成十二年
謹賀新年

大吉寺住職

成田有恒

〒154-0017 世田谷区世田谷四十七九

願行寺住職

佐藤成順

〒140-0004 品川区南品川二十一十二

天光院

真野龍海

http://www.evam.ne.jp/kenkojin
ryumano@venus.dti.ne.jp

住職

樋口隆信

副住職

樋口伸生

〒950-0834 宮城県石巻市門脇町二五十七西光寺
電話(〇二五)二二二二六四

梅窓院

住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38

電話 03 (3404) 8447

ホームページ

http://baisouin.or.jp

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四十二二十八

明顕山祐天寺

住職
巖谷勝正

〒133-0001 東京都目黒区中目黒五二四五三
電話(〇三三)三七二二〇八一九

横浜 大光院

宮林昭彦

浄土の広場

FORUM

「浄土の広場」では
読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウオッチング、紀行文、その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●短日

〈特選〉

短日やきみの手帖にしるし打つ

神田弓絵

●デートに冬の一日は短すぎる。別れを惜しみながら次の約束をするのだが、口約束では心もとなくて、お互いの手帳にしるしを打つ。文字など必要のない暗黙のものだ。二人の幸せを願いたくなる一句である。

〈佳作〉短日や留守電無言のまま切れる

新発田 享

三輪車孫と探して暮れ早き

石原 新

降車して友に追いつく日の短

中村よみ子

●大根

〈特選〉

大根稲架組んで風呼ぶ伊勢平野

島谷ときを

●伊勢たくあんの産地である。稲架という稲を干すものだが、こちらは大根で、いま骨組みが出来たところだろう。あとは大根を掛

選者=増田河郎子

けて風にさらす。「風呼ぶ」は、よい干大根が
出来ることへの願いである。

〈佳作〉味気なき病院食の大根煮る

武田 蘭

大根の葉を炒めおり静かなり

大神勢津子

大根の意外な程に太りけり

前場多万枝

●自由題

〈特選〉

里神楽おかめの面ののど仏

小久保すづな

●ひよつとことおかめが、おどけた舞いを展
開する。どちらも男だから、おかめ役にも当
然のど仏はあるのだろうか、そこに目をつけ
たのが見どころである。下半は「面をつけた
男ののど仏」を縮めたのだ。

〈佳作〉豊年や農を継ぐ子の婚決まる

細田 初枝

木犀の雨となりたる法会かな

河合富美枝

今日はこの口紅の色石榴割る

増田 信子

参加作品

短日

短日や買物メモに妻の顔

短日や一バスおくられて荷の重く

短日や駅に帰宅の人溢る

二〇〇〇年へ秒読みのけふ日短か

短日や回廊暮るるまで廻る

短日も身を持てあます老いひとり

短日や指滑らせて米を研ぐ

遊ぶ子も暮早くして帰途につく

大原の早き日暮れや石仏

短日の浜に網干す漁夫ひとり

三輪車孫と探して暮早き

降車して友に追いつく日短

大根

上野明達

山本美代子

細田初枝

松田光誉

大場清

中島一子

河合富美枝

山口信子

増田信子

井村善也

石原 新

東野祐子

ずつしりと手巾ほどなる大根かな

大根炊く行事納めの十夜寺

沿道の大根振りし応援団

濡縁に大根干すも村の寺

若き怒涛眼下に大根引く岬

青首白首共に大根器量よし

千切りの大根食めば母恋し

町ごとに声変えて売る大根かな

伊勢平野農夫片手で大根引

待ちきれぬ大根洗う法事かな

無造作に大根洗う川の中

自由題

朝な朝開き迎えるふきのとう

十一人目の孫は辰年冬うらら

歳月が変へし芦原ビルの街

廃村に残る礎石や枯野中

友の計の便りぬらして初しぐれ

一握の砂しろがねとなる小春

店ごとの時計見てゆく町小春

妻つきて小春日和の試歩の人

書き直す現代仮名や冴ゆる夜

秋高し甲斐の狍犬胸丸く

病む母の耳垢をとる縁小春

かもめ舞いそめて冬めく海の色

弧を描き入江出てゆく小春風

吹き上げる風にゆだねし草の絮

河合富美枝

中島一子

大場清

松田光誉

細田初枝

山本美代子

上野明達

浜口佳春

谷しげ子

増田信子

石原 新

上野明達

山本美代子

細田初枝

松田光誉

中島一子

河合富美枝

池田伊吹

三橋仁平

堤ふみ子

大村和代

北川弘子

島谷ときを

小久保あきを

小林惠美

第十二回
浄土誌上旬会の
お知らせ

季節

賀状

福寿草

自由題

締切・一月二十日
発表・『浄土』二月号
選者・増田河郎子（『南風』主宰）
応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各一名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0001 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上旬会係

ばずる

イラスト 藤丸ひろし

まちがいさがし

答えは31ページにあります。

「おもちゃのびるんだよねー」



★まちがいは7ヶ所あります。



■自費出版のお知らせ■
『浄土』の原稿を本に

小澤勇貫・著

『ご法語に学ぶ』

東京・八王子極楽寺の先代住職小澤勇貫上人の
『浄土』連載原稿が本になりました。

小澤憲珠現住職が先代七回忌にあたり、記念本として出されたもので、昭和四十年代に『浄土』に連載された勇貫上人執筆の法然上人『小消息』と善導大師『発願文』をまとめた『ご法語に学ぶ』です。当会ではこうしたバックナンバー原稿の出版のお手伝いもしております。お気軽にご連絡下さい。

*なお、『ご法語に学ぶ』は非売品ですが、小澤先生のご好意によりお分けします。ご希望の方は編集部までご連絡下さい。

法然上人顕仰会『浄土』編集部

☎ 03-1357816947

FAX 03-1357817036

ご法語に学ぶ

法然上人『小消息』
善導大師『発願文』

小澤勇貫

編集後記

ミレニアム炬燵にみんながムレニアム

岱潤

いよいよ西暦が二〇〇〇年になる。

最近では公式な書類も平成で書くことが多く、年号を書くときにそれほど一九九九年と書くことは減ってはいたが、二〇〇〇と書くことに慣れるには少し時間がかかりそうだ。

この慣れてしまえばあたり前のことが、慣れないうちは苦勞をするのはどんなことにもいえそうだ。

小生パソコンなるものにはとんと弱く、時々先輩からも「おいおい」と言われてしまうほどだ。しかしワープロを打ち込む速さはそれほど遅いほうではない。慣れた機械ならば操作のこと

は考えなくて指が動いている。

しかしまた、この慣れるということがいいことだけとは限らない。言い方が受動態の慣らされるに変わると、途端にマイナスイメージの言葉となる。

最近はおかしな意味で、「定説」や「天の声」といった言葉が語られているが、最初異常と思えたことも、段々に慣らされて当たり前に変わってしまったことを、ここところずいぶんと味わってきたような気がする。おかしなことをあくまでもおかしいと思える感覚を大事にしたい。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤晃道

村田洋一

佐山哲郎

間川彰道

編集顧問

大室了暗

浄土

六十六巻 一月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可
印刷——平成十一年十二月二十五日
発行——平成十二年一月一日

発行人 真野龍海

編集人 宮林昭彦

印刷所——株式会社 シーティーイー

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四一七一四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話〇三(二五七八)六九四七

FAX〇三(二五七八)七〇三六

振替〇〇一八〇一八八二一八七



道路工事中



消火器



歩行者横断禁止



火気厳禁



止まれ



電線注意



民衆近し 静かに



足元注意

住友海上

代理店



踏切あり



非常口



注意

安心と安全をお届けするのは、
このマークです。



さわるな



おれ物注意



安全第一



注意注意



取り扱い注意

ここにあるマークの意味、わかりますか？暮らしの中には、注意を呼びかけるマークが、ほんと、たくさんあるんですね。生活のいろんな場面で、みんなが注意合って、ルールを守っている。だからこそ、私たちは毎日を穏やかに、安らかに過ごせます。でも、万が一のときのために、覚えておいて頂きたいマークがあります。それは、あなたに安心と安全をお届けする、このマークです。保険のことは、あなたの街にある住友海上代理店へ。

安心と安全をお届けする



住友海上

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-1111(大代表)

『浄土』特選頒布会

ご注文・お問い合わせは法然
上人鑽仰会まで。

【水晶数珠】

電話：03-3759-7074

FAX：03-3759-6323

【布教額・選択集十六章之図】

電話：03-3578-6947

FAX：03-3578-7036

肌身はなさず、
仏さまの御加護を

水晶 数珠

水晶腕念珠

- 水晶腕念珠 ① 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円
② 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円
- 水晶数珠 プレスレッド ③ 6ミリ珠・M(16センチ)2,200円
④ 6ミリ珠・L(18センチ)2,500円
⑤ 8ミリ珠・M(16センチ)2,700円
⑥ 8ミリ珠・L(18センチ)3,000円

- ・申し込からお届までおよそ3週間です。
- ・送料は一個口あたり300円です。また別途消費税がかかります。
- ・支払いは商品のお届時の代金引き替えです。
- ・商品の品質に関しては万全を期しておりますが、配送時の事故、不良品、誤配達などについては送料当方負担でお取り替えいたします。



水晶数珠プレスレッド



仏壇用宗旨布教額
家庭の仏壇にぴったりの布教額です

大(320×183ミリ)
1,260円(送料別)
小(273×142ミリ)
480円(送料別)

平成11年6月より頒布価格が変わりました

選択集十六章之図 選択本願念仏集を絵で解きました

豪華額装入り(585×465ミリ)
20,000円(税・送料別)解説書入り
(お届まで4週間かかります)

